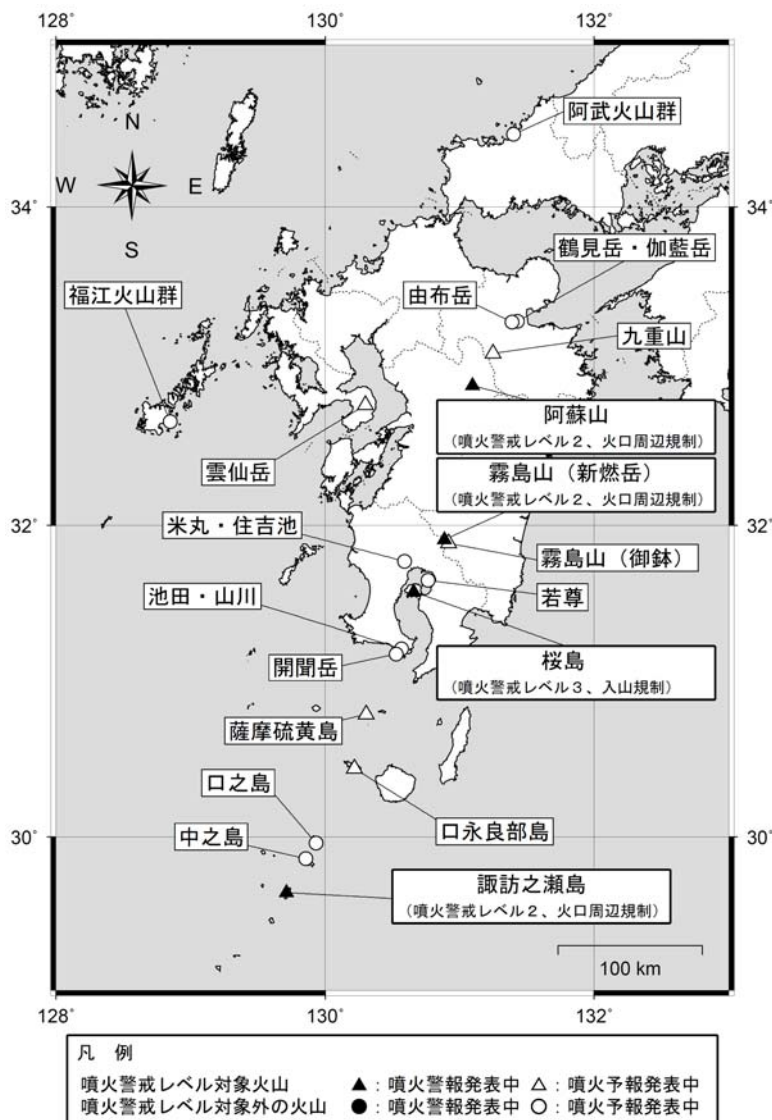


管内月間火山概況（平成 26 年 1 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（1月31日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	桜島
	レベル2（火口周辺規制）	阿蘇山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
噴火予報	レベル1（平常）	九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島、口永良部島
	平常	阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島



※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 26 年 2 月分）は平成 26 年 3 月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人産業技術総合研究所、大分県、長崎県、鹿児島県及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

鶴見岳・伽藍岳〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

九重山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

阿蘇山では、13 日 12 時 15 分に中岳第一火口で、ごく小規模な噴火が発生しました。その後、27 日、29 日及び 31 日にもごく小規模な噴火が発生しました。阿蘇山で噴火が発生したのは 2011 年 6 月 9 日のごく小規模な噴火以来です。

中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

雲仙岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

霧島山（新燃岳）〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

火山性地震は少ない状態で経過し、地殻変動観測の状況などに特段の変化はありませんでした。

新燃岳の北西数 km の地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止した状態が続いています。しかし、火口内に溜まった溶岩は依然高温状態にあり、火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性は残っています。

新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰だけではなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

降雨時には、泥石流や土石流に注意してください。

霧島山（御鉢）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）〕

昭和火口では、爆発的噴火が 14 回発生するなど、活発な噴火活動が継続しました。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

薩摩硫黄島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。しかし、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では、火山ガスに注意してください。

くちのえらぶしま

口永良部島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。しかし、新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

すわのせしま

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

御岳火口では、2013 年 12 月 26 日から 2014 年 1 月 9 日にかけて噴火活動が活発となり、この期間で爆発的噴火¹⁾ が 270 回発生しました。このうち、1 月の爆発的噴火は 23 回でした。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、予報警報事項に変更はありません。